

2020年度 主要私立大志願状況(2月20日現在集計)

河合塾

2020/2/21

私立大一般入試では2月入試が終盤を迎え、2期(3月)入試の出願がスタートしている。主要大の1期入試(2月実施)の志願者数が出揃った現時点の志願者集計(2月20日現在)から今春入試を分析する。

■志願者数は減少、センター方式では高い減少率

【表1】は現時点で志願者数が判明している全国107大学の状況をまとめたものである。今春の一般入試の志願者数は、全体で前年比94%と前年から約15万人減少。私立大の志願者数は14年ぶりの減少となる可能性が高い。

志願者減少の要因となったのは次の3点と考える。1点目は、18歳人口の減少にともない、2020年度大学志願者数自体が減少する見込みであること。センター試験の志願者数も前年比96%と大学志願者数の減少と連動した動きをみせているが、同様に私立大の志願者数にも影響が及ぶだろう。2点目は、近年私立大入試の難化が続いたこと。2016年度以降、私立大では都市部の大規模大を中心に、定員超過是正を目的として合格者数を大きく減らす動きがみられ、難化傾向であった。2019年度入試ではすでに定員超過率の適正化を済ませた大学もあり、私立大全体の合格者数は3年ぶりに増加したが、志願者数も増加したため倍率(志願者÷合格者)は上昇、難化したケースが目立った。今春は、前年入試で難化した大学の受験に消極的な様子がみられる。3点目は、大学入学共通テストの導入をはじめとする入試改革を翌年に控え、受験生の安全志向が高まったこと。新聞等の報道でも取り上げられているように、英語資格・検定試験に関する諸課題や大学入学共通テスト記述式問題の導入延期など、方向性が定まらないことへの不安感に加え、前述の通り私立大入試難化の影響から、一般入試を受験せず推薦・AO入試などで早期に進学先を決めた受験生が例年以上に多いようだ。

方式別にみると、一般方式では前年比98%と微減にとどまっている一方、センター方式では前年比88%と大きく減少した。今春は、センター試験の平均点が英語・数学・国語といった主要科目を中心にダウンしたことも減少の一因と考える。とくに、センター試験日以降に出願可能なセンター方式では、志願者数が大きく減少した大学が散見される。また、2019年度入試では、併願先として受験負担の軽いセンター方式を活用して受験校を増やす動きがみられた。成績上位層が集まる結果となり、ボーダーラインが上昇し難化した大学も少なくない。こうした状況をふまえ、今春は合格可能性ラインの高いセンター方式の出願をあきらめた受験生が例年以上に多い様子がうかがえる。

【表1】私立大 大学グループ別志願状況

学校区分	一般方式			センター方式			合計			
	19年度	20年度	前年比	19年度	20年度	前年比	19年度	20年度	前年比	
主要107大学 計	1,829,113	1,791,446	98%	950,927	835,479	88%	2,780,040	2,626,925	94%	
主な内訳	早慶上理	199,416	189,318	95%	41,063	34,930	85%	240,479	224,248	93%
	MARCH	292,974	282,024	96%	154,442	128,568	83%	447,416	410,592	92%
	成成明國武	69,332	64,576	93%	43,169	31,312	73%	112,501	95,888	85%
	日東駒専	174,177	172,445	99%	117,940	87,603	74%	292,117	260,048	89%
	首都圏理系10大学	154,323	161,258	104%	112,079	115,516	103%	266,402	276,774	104%
	首都圏女子14大学	43,603	42,522	98%	30,942	22,545	73%	74,545	65,067	87%
	関関同立	184,453	178,953	97%	81,570	77,946	96%	266,023	256,899	97%
	産近甲龍	191,619	182,866	95%	70,266	65,553	93%	261,885	248,419	95%
	上記以外の大学	519,216	517,484	100%	299,456	271,506	91%	818,672	788,990	96%

※数値は2/20現在、出願期間中の方式および志願者数未公表の方式は集計対象外

(大学グループ)

早慶上理:早稲田・慶應義塾・上智・東京理科 MARCH:明治・青山学院・立教・中央・法政 成成明國武:成蹊・成城・明治学院・國學院・武蔵

日東駒専:日本・東洋・駒澤・専修 首都圏理系10大学:千葉工業・北里・工学院・芝浦工業・東京工科・東京電機・東京都市・東京農業・麻布・神奈川工科

首都圏女子14大学:大妻女子・学習院女子・共立女子・白百合女子・実践女子・昭和女子・聖心女子・清泉女子・津田塾・東京家政・東京女子・日本女子・東洋英和女学院・フェリス女学院 関関同立:関西・関西学院・同志社・立命館 産近甲龍:京都産業・近畿・甲南・龍谷

■難関大グループでは軒並み減少、前年入試の反動で大幅減の大学も

大学グループ別に志願状況を見ると、「首都圏理系10大学」を除き軒並み減少した。また、首都圏の各グループでは、とりわけセンター方式で大きく減少していることが特徴である。首都圏では、センター試験自体の受験者数減少も目立ち、近年のセンター方式の難化の反動がうかがえた。志願者の増加が続いていた「日東駒専」グループ全体では、前年から1割以上減少。大学別にみると、日本大では前年比114%と2019年度入試で志願者が大幅に減少した揺り戻しで増加したが、その他の3大学では軒並み減少した。なかでも、駒澤大では前年から4割減少しており、後期入試を除き過去10年を遡っても最少の志願者数となった。2019年度入試でセンター方式

の倍率が高騰したため、敬遠されたようだ。東洋大（前年比 78%）は、過去 2 年の入試では 1 期入試（2 月実施）で 10 万人を超える志願者が集まったが、今春は 10 万人を割り込んだ。

西に目を向けると、「関関同立」「産近甲龍」グループでも志願者は減少したが、首都圏の難関大グループと比較すると減少率は小幅である。「産近甲龍」グループ全体では、2019 年度入試までの 10 年間で志願者が約 12 万人も増加したが、今春は京都産業大を除く 3 大学で志願者が大きく減少した。なかでも、甲南大（同 83%）では前年入試で倍率が高騰した反動からか、警戒された様子が見られる。

志願者減少が目立つ状況ではあるが、現時点で早稲田大、法政大、明治大、日本大、近畿大の 5 大学が 10 万人を超える志願者を集めている。

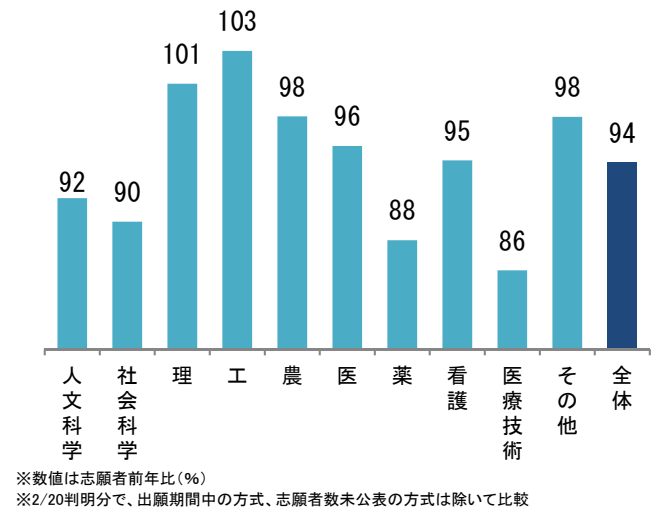
■学部系統別一文系で志願者減が鮮明、理工学系は堅調な人気

【グラフ 2】は、学部系統別の志願動向である。今春は文系不人気は鮮明である。私立大全体の志願者数前年比 94%を基準にみていくと、「人文科学」「社会科学」の 2 系統では、それより高い減少率となった。

理系では、「理」「工」の志願者が増加し、志願者が減少する系統が目立つなか、堅調な人気がかがえる。「農」ではやや減少したが、他の学部系統と比べても減少率は小幅である。

医療系に目をむけると、「薬」「医療技術」では大きく減少したほか、「医」も前年比 96%と減少。2019 年度入試では医学科は志願者が減少した一方、合格者数が前年から 1 割増加したため倍率は大きくダウンしていた。今春は前年をさらに下回る志願者数となり、競争緩和が期待できる。

【グラフ 2】私立大 学部系統別志願状況



■各地区主要大学の志願状況

次に全国の主要大学の志願状況（判明分）を確認する。今春は、新入試を翌年に控え、例年と比べて志願動向に影響を及ぼすような変更が少ない入試といえるが、過去の入試の反動により志願者の増減が激しい大学・学部が目立つ。【表 3】はいずれも 2 月 20 日までに志願者数が判明した入試方式の集計である。

【青山学院大学】

大学全体の志願者数は前年比 96%と減少。方式別にみると、一般方式（前年比 101%）、センター方式（同 79%）となっており、センター方式で減少した。一般方式で前年の志願者を上回ったのは、首都圏の難関大グループ「早慶上理」「MARCH」では唯一である。一般方式の志願者増は、新設 2 年目となるコミュニティ人間科学部の志願者増（前年比 152%）の影響が大きい。2019 年度入試では他の文系学部と比べて低倍率だったこと、難易度が低かったことから、狙い目と感じた志願者が集中したようだ。そのほか、社会情報学部でも一般方式（前年比 114%）、センター方式（同 127%）ともに増加した。情報分野の人気の高まりに加え、前年入試で志願者が減少した反動が要因と考える。

【慶應義塾大学】

大学全体の志願者数は前年比 92%と大きく減少。今春の志願者数は 4 万人を割り込み、過去 10 年を遡っても最少となった。

学部別にみると、全学部で志願者が減少。なかでも、法（前年比 88%）、経済（同 88%）、看護医療（同 86%）などでは高い減少率となった。理工学部では前年比 95%と減少。減少幅は大きくないが、2015 年度入試以降、志願者の減少が続いている。理工学部では、今春から学門の名称と構成を変更した。募集人員に対する志願者の倍率をみると、最も高いのは学門 D（機械・システム分野）が 13.3 倍、次いで学門 C（情報・数学・データサイエンス分野）が 13.0 倍となった。ただし、最も低い倍率となった学門 A（物理・電気・機械分野）でも 12.1 倍であり、例年以上に学門間の倍率差は小さくなっている。

【上智大学】

大学全体の志願者数は前年比 94%と減少。2019 年度入試では志願者数が前年から 1 割減少したが、今春はさらに減少した。

学部別にみると、総合グローバル（前年比 114%）、総合人間科学（同 100%）を除く全学部で志願者が減少し

た。総合グローバルでは、前年入試で志願者が大きく減少し倍率がダウンした反動から志願者が集中した。一方で、法（前年比82%）では高い減少率となった。2019年度入試で志願者が増加した一方で合格者が大きく減少したため、敬遠されたようだ。方式別にみると、TEAP利用型では前年並みの志願者が集まっており、学科別方式で大きく減らした形だ。

[中央大学]

出願期間中であるセンター後期を除く志願者数は、大学全体で前年比93%と減少。方式別にみると、一般方式（前年比98%）、センター方式（同87%）とセンター方式で大きく減少した。過去2年の入試では志願者が増加したが、今春入試では他大学と同様に減少に転じる可能性が高い。

学部別にみると、新設2年目となる国際経営（前年比68%）、国際情報（同48%）の減少率が高く、2学部あわせた減少数は大学全体の減少数の8割以上を占めている。とくに国際情報学部は、2019年度一般方式が他学部と比べて群を抜いて高倍率入試となったため、多くの受験生が敬遠したようだ。一方、前年入試で志願者が減少し、倍率がダウンした文、法学部では前年を上回る志願者が集まった。

[東京理科大学]

大学全体の志願者数は、前年比93%と減少。方式別にみると、一般方式では概ね前年並みの志願者が集まった一方、センター方式では減少した。センター方式では、C方式（センタ併用）の志願者数が前年比77%と大きく減少。C方式はセンター試験日以降に出願が可能であり、平均点がダウンしたセンター英語・国語を課すことから出願をとりやめた受験生が多かったようだ。

学部別にみると、経営学部の志願者が前年から3割減少し、大学全体の志願者減に大きな影響を及ぼした。近年志願者増が続いたため、敬遠された様子がみられる。一方、基礎工学部では志願者が増加。とくにセンターA方式での増加率が高く、2019年度入試が1倍台の低倍率入試となった材料工学科では志願者が前年から倍増した。

【表3】主要私立大 大学別志願状況

大学	一般方式			センター方式			合計		
	19年度	20年度	前年比	19年度	20年度	前年比	19年度	20年度	前年比
北星学園	2,009	2,186	109%	1,112	1,167	105%	3,121	3,353	107%
北海学園	4,306	5,124	119%	2,433	2,397	99%	6,739	7,521	112%
東北学院	5,741	5,571	97%	3,637	3,217	88%	9,378	8,788	94%
千葉工業	47,347	53,563	113%	34,490	38,879	113%	81,837	92,442	113%
青山学院	46,287	46,683	101%	14,117	11,139	79%	60,404	57,822	96%
学習院	19,143	16,932	88%	-	-	-	19,143	16,932	88%
北里	9,903	9,553	96%	4,210	3,263	78%	14,113	12,816	91%
慶應義塾	41,875	38,454	92%	-	-	-	41,875	38,454	92%
工学院	13,703	13,293	97%	7,357	7,393	100%	21,060	20,686	98%
國學院	14,503	13,862	96%	11,005	7,470	68%	25,508	21,332	84%
国際基督教	1,255	1,292	103%	-	-	-	1,255	1,292	103%
国土館	12,057	11,948	99%	6,203	7,298	118%	18,260	19,246	105%
駒澤	24,736	18,458	75%	21,546	8,816	41%	46,282	27,274	59%
芝浦工業	25,410	23,788	94%	21,095	17,117	81%	46,505	40,905	88%
上智	27,916	26,156	94%	-	-	-	27,916	26,156	94%
成蹊	14,430	13,805	96%	10,530	8,008	76%	24,960	21,813	87%
成城	11,257	8,649	77%	7,823	5,646	72%	19,080	14,295	75%
専修	30,549	30,522	100%	21,133	17,243	82%	51,682	47,765	92%
大東文化	10,443	11,057	106%	9,560	8,272	87%	20,003	19,329	97%
中央	49,378	48,408	98%	42,087	36,820	87%	91,465	85,228	93%
津田塾	2,258	2,123	94%	2,918	1,826	63%	5,176	3,949	76%
東海	28,836	27,961	97%	22,419	20,855	93%	51,255	48,816	95%
東京女子	5,282	4,883	92%	4,437	3,108	70%	9,719	7,991	82%
東京電機	13,439	14,898	111%	9,122	8,935	98%	22,561	23,833	106%
東京都市	11,961	11,706	98%	16,553	17,657	107%	28,514	29,363	103%
東京農業	18,658	17,357	93%	8,524	9,000	106%	27,182	26,357	97%
東京理科	36,838	36,099	98%	22,512	18,963	84%	59,350	55,062	93%
東洋	52,082	45,157	87%	48,731	33,855	69%	100,813	79,012	78%
日本	66,810	78,308	117%	26,530	27,689	104%	93,340	105,997	114%
日本女子	7,068	7,073	100%	5,938	4,218	71%	13,006	11,291	87%
法政	75,199	71,423	95%	40,248	32,204	80%	115,447	103,627	90%
武蔵	13,195	13,947	106%	4,532	4,224	93%	17,727	18,171	103%
明治	80,033	75,693	95%	31,271	26,914	86%	111,304	102,607	92%
明治学院	15,947	14,313	90%	9,279	5,964	64%	25,226	20,277	80%
立教	42,077	39,817	95%	26,719	21,491	80%	68,796	61,308	89%
早稲田	92,787	88,609	95%	18,551	15,967	86%	111,338	104,576	94%
愛知	12,517	12,831	103%	7,818	6,820	87%	20,335	19,651	97%
中京	19,069	19,591	103%	13,743	14,020	102%	32,812	33,611	102%
南山	16,964	15,641	92%	7,504	6,496	87%	24,468	22,137	90%
名城	21,476	21,644	101%	16,513	16,533	100%	37,989	38,177	100%
京都産業	32,060	33,139	103%	17,901	19,110	107%	49,961	52,249	105%
同志社	42,571	39,654	93%	11,144	10,265	92%	53,715	49,919	93%
立命館	53,027	57,590	109%	34,979	37,186	106%	88,006	94,776	108%
龍谷	41,044	39,336	96%	10,469	10,428	100%	51,513	49,764	97%
関西	63,364	59,459	94%	23,391	20,444	87%	86,755	79,903	92%
近畿	105,953	99,651	94%	33,008	28,975	88%	138,961	128,626	93%
関西学院	25,491	22,250	87%	12,056	10,051	83%	37,547	32,301	86%
甲南	12,562	10,740	85%	8,888	7,040	79%	21,450	17,780	83%
広島修道	5,122	5,379	105%	3,875	3,924	101%	8,997	9,303	103%
松山	5,749	5,256	91%	1,566	1,576	101%	7,315	6,832	93%
西南学院	12,826	13,304	104%	8,520	7,464	88%	21,346	20,768	97%
福岡	31,456	32,889	105%	17,350	17,819	103%	48,806	50,708	104%

※数値は2/20現在、出願期間中の方式および志願者未公表の方式は集計対象外

[法政大学]

大学全体の志願者数は前年比 90%と 2 年連続で減少した。前年から約 1 万 2 千人減少したものの、今春も志願者数 10 万人強を維持した。方式別にみると、一般方式（前年比 95%）、センター方式（同 80%）と他大学と同様にセンター方式で大きく減少した。過去 2 年の入試でセンター方式の倍率が上昇したため、敬遠された様子が見える。

学部別にみると、社会（前年比 105%）、経営（同 112%）では志願者が増加した。2 学部とも 2019 年度入試で志願者が大幅に減少した反動によるものと考えられる。一方、減少率が高いのは経済（前年比 70%）、キャリアデザイン（同 76%）、人間環境（同 77%）など。なかでも経済学部では、大学全体の志願者減少数の約 4 割を占める、4 千 3 百人もの志願者が減少した。

[明治大学]

出願期間中であるセンター後期を除く志願者数は、大学全体で前年比 92%と減少したものの、今春も 10 万人を超える志願者が集まった。方式別にみると、一般方式（前年比 95%）、センター方式（同 86%）とセンター方式で大きく減少した。

学部別にみると、状況は大きく異なる。政治経済学部では、前年入試の反動により志願者が前年から 4 割以上増加。なかでも、経済学科では学科全体で前年から 3 千 5 百人の志願者が増加した。2019 年度入試で倍率が大きくダウンしたこと、他の文系学部・学科と比べて入試難易度が低かったことが志願者集中の要因と考える。一方、その他の学部では志願者は軒並み減少した。国際日本学部では、今春入試より英語資格・検定試験を利用する方式を新たに 2 方式導入したが、志願者の増加には至らなかった。

[立教大学]

大学全体の志願者数は、前年比 89%と大きく減少。2016 年度入試の頃の志願者数まで戻った。方式別でみると、一般方式（前年比 95%）、センター方式（同 80%）とセンター方式での減少が大きい。

学部別にみると、コミュニティ福祉（前年比 59%）、法（同 81%）、経済（同 82%）などでは志願者大幅減となった。また、一般方式では英語資格・検定試験を出願要件として利用するグローバル方式の志願者数が前年から半減した。グローバル方式は 2016 年度入試で導入され、2018 年度入試までの 3 年間、志願者は増加してきた。今春は前年に引き続き減少したが、他の一般方式と比べて高倍率入試だったこと、一部の学部・学科を除き出願要件となる英語資格・検定試験の成績基準を前年から引きあげたことが志願者敬遠の要因と考える。

[早稲田大学]

大学全体の志願者数は前年比 94%と 2 年連続で減少したが、今春も 10 万人を上回る志願者が集まった。方式別にみると、一般方式（前年比 95%）、センター方式（同 86%）とセンター方式で大きく減少した。早稲田大では、すべての学部の出願締め切り日がセンター試験後に設けられている。2019 年度入試では、センター試験の平均点アップが後押しする形でセンター方式の出願数が増加した。今春は前年の志願者増の反動に加え、センター試験の平均点ダウンの影響により大きく減少した。

学部別にみると、志願者が増加したのは文（前年比 102%）、基幹理工（同 103%）の 2 学部のみ。どちらの学部も前年入試で倍率がダウンしたため、志願者が集まったようだ。文学部では、一般方式では減少したものの、英語 4 技能テスト利用型の志願者が前年から 3 割以上増加した。

[同志社大学]

大学全体の志願者数は前年比 93%と減少。2019 年度入試では志願者・合格者数ともに減少しており、極端な難化は見られなかったが、今春も引き続き敬遠されている。方式別にみると、一般方式（前年比 93%）、センター方式（同 92%）と方式による偏りもみられない。

学部別にみると、文系学部では法、商（ともに前年比 77%）などで志願者が大幅に減少した。他の文系学部と比べて難易度が高いことから警戒されたようだ。一方、政策学部では、志願者数は前年から約 2 割増加。2019 年度入試で学部全体で約 1 千人の志願者減となり、倍率がダウンした反動によるものと推測する。ただし、今春の志願者数は 2018 年度入試の 8 割程度にとどまっている。理系学部では、理工学部で前年並みの志願者が集まったのに対し、生命医科学部では前年比 91%と減少した。とくに、センター方式での減少率が高く（前年比 78%）、前年入試で倍率が上昇した反動と考える。

[立命館大学]

後期入試を除く大学全体の志願者数は、前年比 108%と増加し、現時点で 2019 年度入試の志願者数（後期入試含む）を上回った。「関関同立」グループ内で唯一の増加大である。方式別にみても、一般方式（前年比 109%）、センター方式（同 106%）と両方式で増加した。志願者増の要因は、2019 年度入試で志願者減少と合格者数増加に伴い、倍率が下がった反動によるものと考えられる。

学部別にみると、前年が低倍率入試だった学部で志願者が集まった様子が見られる。文系学部では、経営（前

年比 154%)、経済 (同 123%)、文 (同 114%) など志願者が大幅に増加した。なかでも経営学部では、センター方式の志願者が倍増しており、今春入試は難化が推測される。理系学部に目を向けると、情報理工 (前年比 119%)、理工 (同 117%)、生命科学 (同 107%) では志願者が大きく増加した。

[関西大学]

後期入試を除く大学全体の志願者数は、前年比 92%と減少。なかでも、前年入試で志願者が増加したセンター方式では、前年比 87%と 1 割以上減少した。

学部別にみると、文系学部では、経済 (前年比 103%)、法 (同 102%) では前年を上回る志願者が集まった一方、その他の学部では軒並み減少した。法学部では、今春から学部個別日程において英語資格・検定試験を出願要件として利用する「英語外部試験利用方式」を新設。募集人員 20 名に対し、542 人の志願者が集まった。理系 3 学部 (環境都市工、化学生命工、システム理工) では、センター方式で志願者が増加した。環境都市工、システム理工では、今春入試よりセンター前期の教科・科目数が 5 科目から 4 科目に変更となり、負担が軽くなったことで志願者を集めたようだ。

[関西学院大学]

後期入試を除く大学全体の志願者数は、前年比 86%と大きく減少。方式別にみても、一般方式 (前年比 87%)、センター方式 (同 83%) と他大学と比べても減少率の高さが目立つ。関西学院大では、過去 2 年志願者減少が続いてきたが、歯止めはかからなかった。

学部別にみると、前年並みの志願者を集めた国際 (前年比 100%)、文 (同 99%)、商 (同 99%) の 3 学部を除き、志願者が大幅に減少した学部が目立つ。なかでも、理工学部では前年から 1 割以上減少した。理工学部では近年志願者の増減を繰り返す隔年現象が続いており、今春は減少年にあたる。今春は新規方式を多数実施するなど増加要因となる入試変更もあったが、増加には至らなかった。